

広報

あいづばんげ

6 2016 No.622

特集

守りたい町がある

会津

会津坂下町



地域の安全を守る消防団

A group of firefighters in blue uniforms are running in a line on a paved area. They are wearing blue caps, blue shirts with orange accents, blue pants, and black boots. They are running towards the right side of the frame. In the background, there is a building with a red roof, a chain-link fence, and some trees. The sky is clear and blue.

消防団の活動は、火災の際の消火活動はもちろん、様々な自然災害への対応や人員搜索、火災・災害の予防活動など多岐に及んでいます。

団員のみなさんは、ボランティアでこのような活動に取り組んでいます。

いざというときに備え、日頃から訓練を行い、有事の際には、いち早く現場に駆けつけ、その現場に対応した活動を行います。そして、最後まで現場を、地域を見守ってくれています。

わが町にも、愛する地元を自らの手で守れるようにと組織された伝統ある消防団があります。

今回は、会津坂下町消防団の活動と、団長・団員の言葉をとおして、地域の安全を守る消防団の姿を特集します。

会津坂下町消防団

活動の一部を紹介

主な行事スケジュール

月	内容
4 月	春季防火パレード 春季検閲
6 月	阿賀川水防訓練
8 月	会津坂下町防災訓練
10 月	秋季消防連合検閲
11 月	秋季防火パレード
1 月	消防団出初め式 文化財防火デー火災防御訓練

会津坂下町消防団

構成 7分団 54班

団員数 533名

分団(班)名	分団長	団員数
第1分団	長谷川孝一	56名
第2分団	宮田 敏勝	88名
第3分団	佐藤 宗明	85名
第4分団	青柳 淳一	92名
第5分団	代島 克美	61名
第6分団	藤田 政光	70名
第7分団	小畑 久栄	60名
女性班	長谷川美代子	14名
本部	7名	計 533名



訓練

いざというときに迅速に行動できるように、日頃からチームワークを鍛え実際の道具を使って訓練を行います。また、地域の人たちと一緒に防災訓練を行い、消防団出動前のような場合にも対応できる地盤づくりをしています。

予防

火災時に出勤し、被害を最小限に抑えることはもちろん、「予防・消防」として、初めから火事を起こさないよう地域に呼び掛けるための活動を行っています。代表的なものが、春季検閲に行われる「夜警」です。夜になると、鐘を鳴らしながらポンプ車で町内を周回して火災予防を呼び掛けると同時に、町内で火災が起きていないかどうかを見回っています。

夜警に密着！

毎年、春季検閲前に当番制で行っている

夜警巡回に同行させていただきました！



午後9時より火災予防の夜警を開始します。



車内の点検を行って、いざ出発！



3回目の見回りを終え、本日の夜警終了です。お疲れ様でした。「別れ！」



晴雨問わず、町中を見回ります。1回目は鐘を鳴らしながら担当地区内を一周し、2回目は午後11時から開始します。



たなかともりのり
田中知徳さん（前列右から3番目）と、田中さんと拠点屯所を同じくする会津坂下町消防団第1分団第5・6班のみなさん

「町を守る」 一つの使命のもとに

生かすことになります。

反対に、訓練する機会があるときに、器具の使い方などを覚えてしまわないと、いざというときにあたふたしてしまうことになります。

ちよつとしたミスが一分一秒を争う現場では命とりになるので、緊張感をもって取り組んでいます。

—消防団に入ってから、何かご自身で変わったと感じることはありますか？

一度現場に出動してから、団員として活動することへの使命感のようなものが生まれた気がします。

東日本大震災の時には、仕事のお客様さんの家を一軒一軒まわって無事かどうかを確かめましたし、遠くでサイレンがなっていたりすると、出動命令が来なくても、どこで火災や事故が起きているのか気になり、火災情報などを確認しています。

また、自分自身結婚して子どもができ、改めて家族を守らなければならぬという想いを持ちましたが、同時に、地元である地域や町を守りたいという気持ちも強くなりました。

おそらく、消防団に入っていないかったら、今ほど町のことを気にかけることもなかったのではないかと思います。

さらに、消防団に所属して、普段生活しているなかではなかなか関われない業種や年代の人たちと交流で

きるようになったことも自分の財産となりました。

大変なことやつらいことがあっても、周りの仲間がいるから頑張れています。

—最後に、今後の目標を教えてください。

これからも地域のために、信頼できる仲間と一緒に頑張っていきたいです。

また、消防団員として、自分を動かしている「使命感」を何とかして若い人たちに伝えていかななくてはならないと思っています。

—田中さん、班員のみなさん、取材にご協力いただきありがとうございます。



普段は建築関係のお仕事をしている田中さん。大切な家族の存在が、消防団として活動する理由の一つでもあります。

今年の春季消防検閲式で功績章を受章された、第1分団第6班長の田中知徳さんにお話を伺いました。

—日々の消防団活動お疲れ様です。まず、田中さんは入団何年目になりますか？また、当時の心境についてお聞かせください。

20歳で入団し、今年で12年目になります。退団する人がいるので入らないかと誘われたことがきっかけです。

入団するときには特に何も考えずに入ったのですが、当然ながらそれまで経験がないことばかりなので、一から勉強しました。

—日々の消防団活動について教えてください。

団員も普段は自分の仕事があるので、毎週・毎月のように訓練するのは難しいです。ですので、毎年数回行われる大きな行事に向けて、短期集中で訓練をし、それらを現場でも

会津坂下町消防団長に聞く これからの消防団の姿とは

―まず、地域における消防団の役割とはなんなのでしょうか？

消防団は、全国各市町村で組織を持つっており、それぞれの地域住民の安全を守っています。東日本震災や、熊本地震などの報道をみていると、地域の消防団の姿がよく見られますが、実際に現場をよく知る地元消防団がいなければスムーズに活動できない場合も多くあり、地域社会にはなくてはならない存在です。

―会津坂下町消防団の現状と課題についてお聞かせください。

現在、会津坂下町消防団の団員数は533名ですが、以前と比べると減少しており、将来的にも減っていく可能性があります。
消防団員の確保のための取り組みとして、会津坂下町では「消防団応援事業所」という、消防団員とその家族が町内の事業所で割引などのサービスが受けられる制度を設けました。今後は、福利厚生面のでも充

実を図っていく予定です。

最初は「やりたくない」と思いつつ入団する団員もいるようですが、実際に有事の際に現場に出て、「自分たちが地域を守っている」という実感がもてると、やはり責任感のよいなものが生まれます。

きっかけは何にせよ、まず入団してもらうことが大事なので、入団したいと思ってもらえるような組織づくりをしています。

―これからの目指す消防団像というものはありますか？

消防団の発足当初から、「地域と地域に住む住民の安全を守る」という理念は決して変わることはありません。

これからもその理念のもと、有事の際にいち早く駆けつけ対応できるように、消防団員一人ひとりの訓練を大切にしていきます。また、予防消防の考えのもと、火災を起こさない取り組みにも力を入れていきます。

実は、消防団が出勤しなければならぬような大きな火災というものが、ここ2年ほど会津坂下町では発生していません。これは会津坂下町消防団に所属する者としてとても嬉しく、誇れることです。

今後とも地域のため、住民のための消防団として、日々活動を行っていきます。

―黒澤団長、ありがとうございます。

今回の取材では、消防団員の日々の活動や、地域防災に対する強い責任感に触れることができました。

昨今、多種多様で大規模な災害が各地で頻繁に起きており、消防団の活動に対する期待と、その大切さが再認識されています。

地域の事情を誰よりもよく知り、専門的な知識や技術を合わせ持つ消防団員の存在は、私たちが安全な生活を送るうえで大切な要素となっています。

しかし、その一方で全国的に消防団員の減少が大きな問題となっているのも実情です。

地域を愛し、人を愛し、私たちの生活の安全を守ってくれている会津坂下町消防団。

その存在に感謝すると同時に、彼らが持つ熱意の引き継ぎ手が今、必要とされています。

●消防団入団希望はこちらまで

総務課 危機管理班
☎ 84・1533